



◀美園リンゴまつり (9/23)  
子どもたちが頑張って、リンゴのみこしを引っ張りました。

▼東月寒地区交通安全街頭啓発(10/15)

参加者450人。国道36号沿いで全長2kmにわたって街頭啓発を行いました。



▶コンサドーレ札幌 豊平区民応援デー (9/15)

みんなで一生懸命に応援しました!!



▼第24回豊平区長杯争奪ママさんソフトボール大会(9/11)

普段は笑顔のお母さんも、この日は真剣な表情です。



◀豊平区タウントーク (10/20)

市長と地域住民がまちづくりなどについて意見交換を行いました。



第43回 「豊平川の渡守」の巻

～豊平の地、最初の住民～

今からちょうど百五十年前の一八五七(安政四)年、幕府の命により、豊平川に渡船場と通行屋(旅行者の休憩・宿泊施設)が設けられることになりました。当時、銭箱(現在の小樽市銭函)から千歳・勇払に至る札幌越新道があり、その途中の豊平川で人々を対岸へ渡すためのものでした。渡船場は豊平川の東西両岸に設けられ、東岸の豊平区側は、現在の豊平三条一丁目付近に設置されました。この渡船場の渡守に任命され、豊平で和人として最初の定住者となったのが、信州生まれの武士で、当時、剣客としてその名を知られていた志村鉄一でした。彼は、ここに家族三人で暮らしました。なお、西岸の中央区側(現在の中央区南四条東四丁目付近)には吉田茂八が任命され、家族四人で暮らしていました。志村家と吉田家、この二戸七人が札幌で最初の和人の定住者であったということでした。豊平川の渡し船は、時代が江戸から明治に変わっても続き、東岸の渡守と通行屋の番人の仕事は、鉄一が続けていました。しかし、その後、通行人が増加したことから、一八七一年(明治四)年に初めて橋が架け



られました。この時、橋守に任命されたのも鉄一でした。鉄一は一八七四(同七)年まで橋守を続けたそうです。渡河の手段が渡し船から橋に変わった豊平川でしたが、その流れは激しく、最初の橋はわずかひと月足らずで流されてしまいました。その後、六十数回、架け替えや補修が行われ、一九二四(大正十三)年によく永久橋(先代の豊平橋)となり、さらに、交通量の増大などのため、一九六六(昭和四十二)年に架け替えられた橋が、現在の豊平橋です。この豊平橋のやや下流に鉄一の渡船場がありました。しかし、現在、そこには渡船場があった痕跡はほとんど見られません。ただ、そこに立つ「札幌開祖志村鉄一翁居住之地跡」の碑が、百五十年前に鉄一が豊平川の渡守を任じられ、そして、その地に渡守として定住し、豊平の最初の住民となったことを物語っています。